

# 協働の地域づくりへ

### 「協働」への関心のひろがり

協働（コラボレーション）という言葉が地域づくりに用いられるようになって久しい。協働とは「同じ目的をもって、異なる分野・立場の人々が協力して働くこと」とある。確かに、市民、企業、行政がそれぞれの立場で、共通の地域課題の解決に向かって協力する取り組みは全国で見られるようになった。

かつて、ボランティア主体の取り組みがもてはやされた時期には、仲良しグループやオピニオンリーダーが小さな力を集めて進める個性的なイメージの活動が多かった。しかし、地域課題に寄与し、多数の市民の関心を集め、地域の自立や活力へとつながる。このような取り組みが生まれるにつれて、協働、特に行政と地域の協働が、成果を生み出す点で欠かせない要素であるとの認識が生まれてきた。

例えば、NPOなどから行政課題に対して寄与する活動を公募して委託する「協働事業」と呼ばれる試みが、多くの自治体で進められている。こうした事業によって、共感でつながっていた市民グループが行政や地域の課題に寄与するなかで、公的な資金の使い方やより広い地域住民の関心を生み出す発言力・広報力を学び、協働をつくりだす力となっている。

さらには、平成20年度から内閣府が始めた「地

方の元気再生」事業は、多様な地域団体からなる協働のしくみを持つことを重要要件の一つにしており、しかも、それまでにない規模であったことや、国や地域の行政の意気込みが大きいこともあって、協働のしくみづくりの重要性を市民に浸透させるのに役立っている。その結果、さまざまな住民団体が元気再生事業をフラッグシップとして目指しているなど、「協働のしくみ」を目指す市民団体も多く生まれている。

### 何から始まるか？ 交流の重要性

とはいっても、すべての取り組みがうまく立ち上がるわけではない。地域づくりにおいて、協働を生み出すには、重要な点は何であろうか？

ビジネスにおいても協働（コラボ）は欠かせないタームとなっている。多くの場合、それは「交流」、特に異分野交流からはじまり、お互いの関心、能力を確認し、一定の信頼を構築し、具体的な対話と交渉へと発展する。そこから共通の目標をもってWIN/WINを目指す連携が生まれる。しかもこうしたプロセスを仕組む仲介者の存在が大きい。これは紛争解決のメディエーションと同型に近い。

プロセス進行の効率を高めるには優秀で信頼される仲介者が重要になる。さらには、空間的距離を克服するために、ネットでのプラットフォームや会議ルーム、SNS（ソーシャル・ネットワーキ

徳島大学大学院 教授  
(地域連携推進室室長・工学部建設工学科)

やま なか ひで お  
**山 中 英 生**



ング・サービス)などの技術活用も進んでおり、技術と関係づくりの専門家の存在が役割をもっている。交流の始まりは「講習や研修」であることも多く、経験や知識の豊かな教育者の存在も大きい。

これらの人々は、個人的動機を有しているのは無論であるが、職・組織としての参加意義も十分に認められており、しかも仲介者は公的な職や民間コンサルタントとしてリスペクトされる存在となっている。

### 行政担当者の参加へ

地域づくりでも、こうしたきっかけづくりは盛んに行われている。しかも、多くの事例から分かるように、行政の担当者自身がこうしたきっかけの場に存在することが重要で、しかも信頼を得る活動が肝要である。しかしながら、業務に直接関係しない交流活動への参加は、行政者個人の関心や性向に左右されるところが多い。しかも建設系の行政では、さまざまな批判のため、組織だった取り組みはむしろ後退しているようにも見える。さらには、よく言われるように信頼を得ても短期間での配置換えや裁量権の制限が強くなっているなど、行政者側の継続性や実行力の確保が難しくなっているのが実状ではないだろうか？これからは、個人に任せるのではなく、NPO研修、市民連

携担当、地域担当職員制度の充実など、組織的な工夫や取り組みの拡大が望まれる。

### コーディネーターの重要性

さらに、協働を組み立てるつなぎ役の不在も気になる。元気なNPOには、金融関係、建築・建設関係やメディア関係者など、こうした能力を有する人材がいることが多いが、そうした幸運がなければ、初動期から職能を有するつなぎ役の支援を受けられる社会的なしきみは極めて弱い。指導員や町職員にこうした職能者を確保する試みも始まっているが、建設コンサルタントなどに多く存在する人材をもっと活用するような、プロジェクト課題に対応した紹介システム、育成システムの充実が望まれる。そして何よりも、米国のコーディネーターのように、こうした能力がリスペクトされる環境づくりが必要であろう。

### 人を育てる

「協働は人を育てる」「頼りない若手も協働の輪に入ると大きく成長する」人材育成の面からも協働は重要な側面を持っている。実はこれからの大学には、地域との協働を通じた人材育成プログラムを持つことも期待されている。これは、私どもへの叱咤でもある。